

塩の道 奥州西街道の古道跡

歴史の散歩道

江戸・仙台間を結んでいた奥州浜街道は、相馬地方を通る陸上の主要な交通路で、改修前の国道6号線にほぼ一致しています。中通りの奥州街道と並ぶ、みちのくの幹線でした。この2つの幹線を結び阿武隈山地を横断する道は、塩や海産物を内陸に運ぶ経路として重要な役割を果たしていました。

それらの古道の一つ、現在の相馬市から飯館村を抜けて二本松市に至る「塩の道」（奥州西街道）は、路傍に残る道標や石塔などが、往時の姿を留めています。

この道は、飯館村内で細分され、名前が付けられていて、上栃窪（南相馬市）から八木沢までを「上野（うえがや）道」、八木沢から関沢までを「八木沢道」、関沢から飯櫃までを「飯櫃道」、



「塩検断所」だった旧渡辺家の屋敷跡。塩の流通は後に国の専売となり、現在は自由化されています。



「塩の道」の傍らに佇む「トウバノマツ石碑群」。石碑や地藏が15体ほど並んでいます。（八木沢地区）

生涯学習事業（コンサートや各種教室、スポーツイベントなど）に参加したり、交流センターで本を借りたりすると、元氣アップポイントが1ポイントたまります。50ポイントがたまると素敵なプレゼントをお渡しします。ぜひご参加ください。

元氣アップポイントを
知っていますか？

10月27日（日）は、いいいて村文化祭です！10月24日（木）～30日（水）の期間には、総合文化展として、村民の皆さんの作品を展示します。素晴らしい作品が並びますので、ぜひ交流センター「ふれ愛館」へお越しください。

いいいて村文化祭

飯館村では毎年読書メッセージコンテストを実施しています。今までに読んだ本について、100字程度の簡単な感想文をメッセージにして伝えてみませんか。読書メッセージコンテストに参加して新しい本との出会いをつなげていきましょう。読書が日常の一部になりますように。

読書メッセージコンテスト作品募集



締切は10月11日（金）！

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

いいいて 18 イノサル通信

侵入者は誰？ ～タヌキ、ハクビシン、アライグマ～

イノシシやサルではなさそうだけど、夜になると何かの動物が畑に入って農作物を荒らしている…そんな時に、よく話題に出る動物を紹介します。大きさや見た目がよく似ていますが、特徴や習性が違うので対策も違います。侵入の仕方や痕跡などの情報を活用して、動物を見分け、相手に合った対策をしましょう。

タヌキ



驚くと硬直することがあるので、よく道路で車に轢かれていられるのを見ます。イヌ科の動物で、目の下に扇状の黒い模様と、前足から肩にかけて黒い模様があります。飯館村にも多く生息していると思われます。雑食性で、小動物や昆虫、植物など色々なものを食べます。フェンスや柵などには、全く登らないわけではありませんが、基本的には登るのが得意ではありません。対策としては、目の細かいワイヤーメッシュ柵や、電線を低めにした電気柵などが有効です。

ハクビシン



ジャコウネコ科で、多くの個体は顔の真ん中に縦の白い線が入っています。原産国や移入の時期は諸説ありますが、もともとは日本にいなかった外来生物です。植物食寄りの雑食性で、果実を好んで食べますが、野菜なども食べます。登るのがとても得意で、狭い隙間も通り抜けます。電線を低

めにした電気柵の他に、複合柵（ワイヤーメッシュ柵の上に電気柵を設置したもの）であれば、ワイヤーメッシュの部分にネットなどを張ることが有効です。



食痕▶

アライグマ



アライグマ科で、タヌキに似ていますが、尻尾に縞模様があるのが特徴です。もともと日本にいた動物ではなく、北米原産です。日本では、飼育個体が野生化して増えたといわれています。特定外来生物に指定されており、農作物の被害の他にも、もともと日本に住んでいる生き物に悪影響を与えることが懸念されています。雑食性で、小動物や昆虫、植物や農作物など、色々なものを食べます。足には人間の手に似た長い指があり、トウモロコシの皮をきれいに手でむいて食べたり、スイカに穴をあけて、中身を取り出して食べたりします。ワナで捕獲する時には、餌にスナック菓子などを使うこともあります。ハクビシン同様に、登るのが得意です。電線を低めにした電気柵の他に、複合柵が有効です。



▲食痕
©WMO

福島県避難地域鳥獣対策支援員

きょうごろ あつし
京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯館村の主担当となりました。

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



イラストも…!